

イエス団報

イエス団の今後に思う

理事 仲澤一彦



イエス団に連なり、27年を過ごし、今年3月に退任しました。社会福祉に関わったのは、大学卒業後に赴任した伝道所が国道2号線沿いに「交通労働福祉センター」を開設していたため、長距離運転手の食堂・宿泊のために職員として調理、風呂焚き等の手伝いを経験しましたが、本格的に勉強をしたこともなく、後に転任した教会ではもっぱら牧会に専念する毎日でした。

私がイエス団と過去の生活で接触があったとすれば、医師であった父が「自分は人の身体を癒すが、お前は人の魂を癒す医者になれ」。そして、神学部を受験するに際して、賀川豊彦の「死線を越えて」を読むようにいわれ、賀川先生の

歩みに圧倒されたことを思い出します。

その後、兵庫教区に転任し、新興団内で開拓伝道を計画することになり、教区伝道部との協議のなかで社会福祉法人格の単独での取得が困難と思われたとき、イエス団教会の村山牧師の協力によってイエス団の交わりのなかで保育園の設立をすることができました。

以来、法人の中で色々な経験をさせていただき、賀川生誕100年を経て、新たな法人設立100年に向けての法人の取り組みにも参加させていただく中で、「イエス団憲章」の制定がなされ、法人の受け継いでゆく指針が示されたことは意義深い事であったと考えております。

文藝春秋10月号にトヨタ自動車の現社長が、絶対に継承すべきは「豊田綱領」であり、自ら常に携帯し文言を今に当てはめ受け継いでいることや、人材育成に、現場を歩き、現場での絆・和を大切に技術の習得や研修をなし、企業内訓練校をもち人材の養成をなしている。このような記事を目にし、

◆発行者 好木村量
◆編集者 文升崎
◆発行所 神戸市中央区
吾妻通 5-5-20
社会福祉法人
学校法人
イエス団
TEL: 078 221-9566
FAX: 078 221-9566

我々イエス団もトヨタではないが、大きな組織となり、2009年後の新しい歩みに、組織をあげて後継者の育成。何にもまして賀川精神の全職員への周知徹底。内容の理解納得がなされねばならないと感じています。

特に幹部となる職員は、ある程度の年月をかけ研修を継続し、真に法人の精神をそれぞれの与えられた地域で発揮できることが望ましいと考えています。今後法人外部からの新しい人材を求めると同時に、内部で実際に現場を経験し育ててゆくようなシステムを立ち上げてゆかなければ、組織と精神の継承が困難になるのではないのでしょうか。

27年の歴史のなかで学んだこと、遣り残したことを申し述べ、感謝とともになおやらなければならぬことがあれば、中古品を手入れをしつつ励みたいと思っております。



二〇〇六年度 法人の動き

● 社会福祉法人の動き

1 理事会の報告 (定員11名、現員11名)

今年度は7回の理事会を開催し、43の議案について協議。

① 4月25日、役員・評議員改選、厚生労働省監査報告に関する件など4議案

② 5月23日、05年度事業報告、決算報告、賀川記念館再生プロジェクトに関する件など12議案

③ 9月5日、情報公開開示規定、東大阪市菊水学園跡地に関する件など6議案

④ 11月14日、献身100年記念の理念委員会に関する件など8議案

⑤ 1月29日、後任施設長、事務局長人事に関する件など5議案

⑥ 2月28日、賀川豊彦献身100年記念事業、賀川記念館立替計画に関する件

⑦ 3月20日、06年度補正予算、07年度事業計画・収支予算に関する件など8議案

2 評議員会の報告 (定員27名、現員23名)

今年度は3回の評議員会を開催し、11の議案について協議。

① 5月23日、05年度の決算・事業報告など5議案
② 9月5日、賀川記念館立替計画に関する件など3議案
③ 3月20日、06年度補正予算、07年度事業計画に関する件など3議案

3 施設長会議の報告 (現員32名)

今年度は2回の施設長会議を開催し6の議案について協議。

① 5月22日、05年度事業報告、決算報告の件

② 3月19日、06年度補正予算、中長期計画06年度評価に関する件など4議案

4 経営会議の報告 (現員13名)

今年度は4回の経営会議を開催し、36の議案について協議。

① 4月20日、賀川記念館再生プロジェクト、東大阪福祉施設事業推進委員会に関する件など6議案

② 7月25日、賀川記念館再生、公益通報者保護規定など8議案

③ 10月31日、献身100年記念の理念委員会立ち上げ、施設長賞罰規定改定に関する件など12議案

④ 2月20日、東大阪福祉事業、献身100年事業に関する件など10議案

5 本部事務局拡大会議 (現員8名)

今年度は5回の本部事務局拡大会議を開催し、36の議案について協議。

① 4月13日、厚生労働省監査報告、神戸保専跡地に関する件など8議案

② 7月20日、賀川記念館再生プロジェクトに関する件など8議案

③ 9月4日、賀川記念館再生プロジェクトに関する件
④ 10月26日、東大阪福祉事業推進委員会に関する件など10議案
⑤ 2月15日、内部監査報告に関する件など9議案

6 企画委員会の報告 (現員15名)

今年度は4回の企画委員会を開催し、15の議案について協議。

- ① 6月1日、新任フォローアップ研修に関する件など3議案
- ② 9月14日、公益通報者保護規定に関する件など4議案
- ③ 12月14日、ホームページに関する件など5議案
- ④ 3月1日、新任職員研修に関する件など3議案
- 7 東大阪福祉事業推進委員会の報告(現員10名)
- 今年度は4回開催し、7の議案を協議。
- ① 7月25日、東大阪福祉事業経過報告など
- ② 8月30日、区画整備事業、事業計画に関する件など
- ③ 10月31日、区画整備事業、資金計画に関する件など
- ④ 2月20日、区画整備事業、事業計画に関する件など
- 8 人事委員会の報告
- ① 8月15日、1月23日、後任施設長人事計画について協議。
- ② 3月31日、役員、評議員候補者推薦委員会
- ③ 6月30日、監事候補者推薦委員会
- 9 編集委員会の報告
- イエス団報 9号を12月10日発刊。
- 10 研修会の報告
- 今年度は理事長、常務理事、企画委員のご協力を得て、以下の研修会を開催しました。
- ① 新任職員フォローアップ研修 6月17～18日 富士ゼロックススペースα(18名参加)
- ② 新任施設長研修会 9月12日 真愛ホーム(7名参加)

- ③ 施設幹部職員研修 11月6～7日 富士ゼロックススペースα (19名参加)
- ④ イエス団・本所賀川記念館・雲柱社施設長合同研修会 11月20～21日 あきる野かがわ館 (49名参加)
- ⑤ 施設長研修会 1月22～23日 コーブこうべ協同学苑 (22名参加)
- ⑥ 新任職員研修 3月22～23日 コーブこうべ協同学苑 (54名参加)
- 11 施設長人事
- 07年4月1日付 甲子園二葉幼稚園 田村 美佳子氏就任
- 07年4月1日付 一麦保育園 前田 充宏氏就任
- 07年4月1日付 天隣乳児保育園 馬場 一郎氏就任
- 07年4月1日付 のぞみ保育園 高野 牧人氏就任
- 07年4月1日付 真愛ホーム 出上 俊一氏就任
- 07年4月1日付 桃陵保育園 宇野 豊氏就任
- 07年4月1日付 坂出育愛館 品川 卓也氏就任

● 学校法人の動き

- 1 理事会の報告(理事定員8名、現員8名)
- 06年度は5回の理事会を開催、17の議案について協議。
- ① 5月23日、05年度決算事業報告に関する件など4議案
- ② 9月5日、賀川記念館立て替え計画に関する件など3議案
- ③ 11月14日、施設長人事に関する件など3議案

- ④ 2月28日、賀川献身100年記念事業に関する件など2議案
- ⑤ 3月20日、就業規則の設置に関する件など6議案
- 2 評議員会の報告(定員17名、現員17名)
- 06年度は3回の評議員会を開催し、13の議案について協議。
- ① 5月23日、05年度決算、事業報告に関する件など4議案
- ② 9月5日、寄付行為施行細則に関する件など3議案
- ③ 3月20日、就業規則設置に関する件など6議案
- 3 人事委員会の報告
- ① 8月15日、② 07年1月23日、後任施設長人事計画について協議。

各ブロックの動き

【兵庫ブロック】

今回は施設長の交替があった五施設のみ報告する。

◆《真愛ホーム》7月末に東川崎地区にて地域密着型小規模多機能住宅介護施設「ゆうき」の竣工式が理事長の出席のもと行われた。新規事業運営のためにお祈り下さい。

(出上 俊一施設長)

◆《甲子園二葉幼稚園》毎朝門の入り口で子ども達を迎えている。保護者や地域の方々とのコミュニケーションがよくなるように変わった。子育て支援の一環として園庭開放により利用児が増えた。

(田村 三佳子 園長)

◆《天隣乳児保育園》本部にいては見えなかった地域のことがよく見える。地域状況を考え、家庭支援の拠点にしたい。子ども達が可愛いので毎日楽しい。

(馬場 一郎園長)

◆《のぞみ保育園》昨年より一時保育を実施した。現在0歳児が月々土登園し、尚且つ長時間保育をしているが、園児のことを考える胸が痛む思いがする。

(高野 牧人園長)

◆《一麦保育園》前園長や職員達の保育に対する取り組みに感謝。この伝統を引き継ぐ責任を感じる。まだ周辺に自然の残る環境を子ども達と味わいながら過ごしたい。

(前田 充宏園長)

【四国ブロック】

◆《豊島ナオミ荘》陸続きでない離島は、職員採用には悲壮さを通り過ぎ、拷問にも近い苦しみを一年中味わっています。高齢者介護に2～3年勤めてみようという若い方々の応募を受け入れるため、宿舎、特別手当などを考えているナオミ荘です。

◆《光の子保育園》園児家庭の世代交代期にあり、新しく迎える家庭との関係作りを慎重に進めています。地元高校との交流保育は今年で2回目。将来、親になる世代に実際の子どもの姿を通して、何かを感じてもらえればと願っています。

◆《坂出育愛館》施設長が交代して新体制で船出しています。保護者に保育に参加していただく新たな企画や専門学校の保育実習をはじめ、地域の各中学校の職場体験の受け入れ、高校文化祭に年長児が和太鼓演奏で参加予定です。

◆《豊島神愛館》香川県で唯一の乳児院である。施設には0歳～5歳までの乳幼児が25名入所している。大舍制では1人が病気になるとその病気が施設内に蔓延するため昨年後半から大舍制から小舍制に切り替えた。小舍制に改築して1年が経った。感染予防に大変効果が出ている。

◆《瞳保育所》豊島で唯一の保育所である。現在1歳～5歳の子ども18名が楽しく通っている。行事の準備にたくさんのお父さんが手伝ってくれる。10月の運動会では1週間前に草刈、前日には会場の準備。当日は道具係りと大変頑張ってくれます。保護者の奉仕があつてこそ瞳保育所は子ども達の行事が出来ます。感謝です。

【大阪ブロック】

◆《天使グループ》天使・ベビー・北園の3ヶ園は少子化の地域にあつても、定員を大幅に超える程の園児で毎日賑わっています。これもひとえに地域に根ざした保育が認められた結果だと評価しています。

今後とも選ばれる保育園を目指して職員一同努力して参りたいと思えます。四貫島友隣館は今後も児童保育を始め各教室等、地域福祉の活動により力を入れていきます。

◆《馬見芳禱保育園》10月現在園児172名、職員36名の馬見芳禱保育園(S7年6月12日設立)は、本年75周年を迎えました。散歩でドングリ拾いをして遊びに活用するなど、自然豊かな環境の中にある保育園です。

(第2面下段より続き)

◆《愛之園保育園》 10月共同募金会の補助で緊急地震速報受信装置「デジタルなまず」が設置された。また、念願だった雨漏れ修繕工事が町の補助金を頂いて、外部全面補修工事までする事になった。来年の創立80周年を前の化粧直しとなる。感謝

◆《聖浄保育園》この4月より、子育て支援センターとして(小規模型) 新たな事業をスタートさせました。毎週1回の園庭開放、看護師による月1回の身体測定を基本ベースとして、地域との連携を図りながら子育て支援の取り組みをおこなっています。

◆《くずはグループ》宇山光の子保育園大規模改修工事を07年9月より08年1月までに完了予定です。いち早く出来上がったトイレを見て大喜びの子どもたちと共に感謝しています。

【京都ブロック】

◆06年度は、それまで桃陵保育園園舎の一部を使っておこなってきた卒園児対象の学童保育希望者が増加し、既存の園舎では手ぎまにならなくなった。また、老朽化や耐震強度の問題等から、園舎東半分を取り壊し、全2階建とする増改築を実施した。12月に竣工した新園舎では、学童を含め各クラスともゆとりをもったスペースが得られ、多目的スペースも確保できたことから、より充実した保育や行事の展開が可能となった。

07年度より、木村淳子園長が退任、宇野豊が新園長となった。
◆桃陵乳児保育園では、少子高齢化の傾向、近隣の公務員宿舎の建て替えによる影響を受け、06年度は、園始まって以来の定員ぎりぎりでの出発となった。07年度も同様であったが、途中入園者が増加。特に0歳児で、当初予定人数の倍近くとなった。両園の周囲では、宿舍解体・建て替え、今後3年間にわたる大規模下水道工事等が実施されており、少々にぎやかな状況となっている。

新任職員フォローアップ研修会に参加して

野の百合保育園
友愛幼児園
山本 晴香
氏家 美弥子

『しんどいことも楽しさに...』

私は、今の保育園に勤めて六年目になります。無我夢中で過ごした一二年目、少しは保育についての視野が広がった三四年目、そして、現実に躓きそうになりながらも、何とかふんばっている五六年目。今年長児クラスを担当しているのですが、泣いたり笑ったりしながら、あつという間に一日が過ぎていきます。

このようなあわただしい毎日が、研修前は苦痛に感じていたこともありましたが、研修で思いを共有できたことで、苦痛もなんだかちっぽけに感じ、逆に自身は恵まれているような気持ちになったのです。そして、何より楽しいのです！もちろん子どもたちを前に、悔しくて涙したり、落ち込んだり...日常なのですが、この仕事だからこそその醍醐味だと思えるようになりました。

研修中に、自分を振り返る機会が多くあり、『なぜ、しんどいのか』を自問自答してみると、案外『あの時、私ががんばっていた。次につながる良い経験になった』と自分を認められるきっかけにもなりました。自己分析することで、自分は自分でいいんだ」と気づけたことは、この先、保育のことだけではなく、生きていく中で大切にしていきたいと思えます。研修を通して、このようなきっかけを与えてくださり、ありがとうございました。

野の百合保育園 山本 晴香

新任施設長研修会に参加して

甲子園二葉幼稚園
園長 田村 三佳子

二期が始まって間もない九月十一日に新任施設長の研修会が真愛ホームで開かれ、身が引き締まる思いで出席いたしました。一学期を無事に終え、夏休みを経て、ようやく園長として何とかやっていけるかなと思えるようになった私にとってはお話や実践を通して多くのことを学びました。

木村先生の「賀川精神とイエス団の使命」では、先生のお人柄溢れる素晴らしいお話を伺う事ができ感動しました。「下座奉仕」—イエス様が弟子達の足を洗われたように！また、賀川豊彦の「弱さを担う人間像」—違いを喜んで受け入れ共に歩まれた—から、イエス団組織として私達が何をなすべきか？時代の新しいニーズに出来るべく二〇〇九年に向って！と力強いお言葉でした。

村山先生からは、「イエス団の歴史と現状について」を伺いました。穏やかな中にも力強いお言葉に、ただただ聞き入っていました。人間より国家が大事と言われた時代に賀川豊彦は「本當の教会！—お前の岩の上に新しい社会を築きたまえ！」と組織としての救

霊団—後にイエス団を築かれた。私達は教会から遣わされ、そしてまた教会へ帰っていく！イエス団の一員としての自覚を新たにさせられました。

(第四面上段に続く)

友愛幼児園 氏家美弥子

(第3面下段より続き)

最後は、牧田先生からの「施設長の任務」でした。たくさんの資料をご用意くださり、現場の具体的な話から冗談を交えつつ楽しくお話くださいました。が、内容はとても厳しいものでした。中でも「施設長たるもの先ずは自分を律せよ!」「施設に居ないなんてもってのほか!」「言われなくてもする、言われてもするな!」という言葉は特に印象的でした。

施設長としてその行為の中に信仰が表れるような、そして常に施設全体のことに関心を配り、地域との繋がりを大切にするなど、正にキリストと共に歩まれた賀川豊彦の生きざまに倣って歩む精神を教えてくださいました。

園では、十月一日に新入園児願書受付をしました。他の園が三日も前から並ぶという過熱した状況の中、「良識の範囲内で」「お子様の事を考えて決して無理をせず」と言い続けたにもかかわらず「どうしても心配だったので」と夜中から並ばれた方達。午前四時過ぎに来られた方はもう補欠となつてしまいました。本当にありがたい!嬉しい悲鳴をあげました。

これは先生たちがこれまで一生懸命保育してくれている結果だと感謝しています。

今、二葉幼稚園は賀川豊彦の精神を実行すべくこの地域に発信していこうとしています。「もともと小さい者にしたのは即ち私にしたのである」の言葉を心に刻み、愛の精神を持って歩みつづけたいと願っています。

イエス団の施設 ⑮

特別養護老人ホーム

ガーデン天使

- ◎ 住所 / 大阪市此花区島屋四丁目一番十一号
- ◎ 創立 / 一九九二年一月二十日
- ◎ 定員 / 特養一〇四名、短期入所一六名、通所介護三〇名
- ◎ 職員 / 正職員四七名、その他四四名、計九一名
- ◎ 施設長 / 小川佐和子

◆◆◆ DATA ◆◆◆

最寄の交通機関：JRゆめ咲線安治川口駅前

TEL 06-6460-0028

FAX 06-6460-0025

施設の所在する此花区は大阪の西の端にあり、重化学工業を中心に発達してきた地域で、住民は下町気質の人達です。高齢化も進み、65歳以上22%に達し介護需要は高い状況です。一方、テemapパークUSJを核として、ウォーターフロントの立地を生かした複合的な都市空間をめざす開発が進められています。

ガーデン天使は、大阪市が1990年に策定した「21世紀に向けた高齢社会対策の長期指針」における施設整備計画の一環として、大阪市の指導・助成、地域の方々の支援を得て、此花区では初めての老人ホームとして誕生したわけですが、当時大阪市に特別養護老人ホームは16か所（現在は約100か所）しかなく、かつ施設の歴史も浅く、範とすべき施設も少なかったため、まさに手探りの状態で始めました。

ガーデン天使の祖故小川居は、当時の状況を次のように記しております。

『建設時はバブル経済がはじけた直後で約10億円为建设する予定が、敷地に想定外の残骸物が埋まっていたため結果的には15億円の資金が必要となり、その調達に奔走しなければなりませんでした。運営もゼロからのスタートで、入居者の健康については地元医師会にお世話をいただき、介護する職員は養成校新卒者、保育園で保育・看護婦・栄養士をしていた者に、更には地元の主婦といった陣容で始まりました。施設としては、キリスト教の精神を生かすことを理念として、介護する者、される者という立場を超えて「共に生きる」ことを大切に、ガーデン天使の名称が示すように「エデンの園」で神様と共に生き「命の木」を中心に神のガーデン作りに励もうとの決心で高齢者の介護を始めることになりました。』

今日では、この小川の精神は全職員に浸透し、高齢者にとっても、地域にとっても信頼できる身近な存在として成長し続けております。

《編集後記》

※黒田信雄先生が企画委員長に着任され、多忙になってこられたことで、同じく企画委員をさせていたでいる私がパトインタッチをし、編集作業をさせていただきましたことになりました。手探りの作業でしたが、読んで下さる方に、喜んでもらえるようがんばりました。編集委員の皆さん、ご協力ありがとうございました。そして何より黒田先生、今まで本当にお疲れ様でした。

(升崎丈夫)